

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成21年度病害虫発生予察特殊報第4号について

本県の施設キクにおいて、キク茎えそ病*Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV) の発生が確認され、特殊報第4号を発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ (www.jpjn.ne.jp/kagoshima) にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第4号

平成21年10月23日
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 キク茎えそ病 *Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV)

2 作物名 キク

3 発生確認の経緯

平成21年9～10月に枕崎市大塚の施設キク（品種：フローラル優花，新神）において、茎や葉にえそ症状を呈する病害が発生した。農業開発総合センター病理昆虫研究室において、RT-PCR法により検定した結果、*Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV) によるキク茎えそ病と確認された。

本病は平成初期にブラジルで初めて発見されたウイルス病である。国内では平成18年に広島県で初めて確認された後、西日本～関東等の各県を中心に相次いで確認され（現在10県）、九州では平成20年に熊本県で発生が報告されている。

4 病徴

茎では明瞭なえそ症状を生じ（写真1）、葉柄基部に同症状が生じると葉が垂れ下がることもある（写真2，3）。新葉での退緑は目立たないが（写真4）、葉脈のえそにより激しい奇形となる（写真5）。トマト黄化えそウイルス（TSWV）による症状と比較すると、えそ症状は激しいが、退緑・黄化は軽い傾向にある。

5 伝搬

CSNVは、TSWVやIYSV（アイリスイエロースポットウイルス）と同じTospovirus属のウイルスで、主にミカンキイロアザミウマによって媒介される。本虫は幼虫が罹病植物を吸汁することでウイルスを獲得し、永続的に伝搬する。また、感染親株からの挿し穂等によっても伝染するが、種子伝染や土壌伝染はしないと考えられている。

6 感染植物

キク以外では、群馬県（平成20年）と千葉県（平成21年）でトマトへの感染報告がある。

7 防除対策

キクえそ病（TSWV）の防除に準じ、以下の対策を実施する。

- （1）施設内外の除草を徹底する。
- （2）施設の開口部には目合い1mm未満の防虫網を張る。
- （3）発病株は速やかに除去・処分（埋設、焼却など）するとともに、媒介虫のミカンキイロアザミウマの薬剤防除を行い、施設内での二次感染を防止する。
- （4）発生ほ場では無病親株に更新する。
- （5）栽培終了後は施設内の蒸込み防除を行い、ミカンキイロアザミウマの分散を防止する。

<キク茎えそ病の病徴>

○茎での症状



【写真1】明瞭なえそ症状を生じる



【写真2】
葉柄基部のえそ症状



【写真3】
症状が進むと葉が
垂れ下がる

○新葉での症状



【写真4】新葉での退緑はあまり目立たない



【写真5】葉脈のえそにより奇形となる

参考 類似の病害虫

< *Tomato spotted wilt virus* (TSWV) によるキクえそ病 >

※主にミカンキイロアザミウマにより媒介される。



【写真1】 茎のえそ症状



【写真2】 新葉での退緑



【写真3】 葉の退緑斑紋

< キクモンサビダニによる紋々病 >



【写真3】 葉の退緑斑紋 (左上：キクモンサビダニ)